

不撓不屈

ふとうふくつ

芸術大目指す

大阪の問屋が売り出したシルバーカーの原型。象印ベビー（大阪府東大阪市）の先代社長の宮城猛が目にしてから程なくして、同社もシルバーカーの生産に乗り出した。しかし当初から主力製品だったわけではない。同社が前身のミヤギ工業所から象印ベビーへと社名変更したのは71年で、乳母車メーカーとして成長を遂げていた。曲がりな

象印ベビー

③

同窓生をスカウト

りにもシルバーカーの販売が伸びてきたのは1990年代に入ってからだった。そんな時期に社長に就任することになる潔が、シルバーカーへと大きくかじを切ることに

欲しい機能反映

卒業後もしばらくは別の道を進んだ。田中は日立製作所に入社し工業デザインを手がけることになった。しかし会議はか

59年生まれ

大への進学を志し、大阪市内の芸大受験予備校に通った。そこで運命的な遭遇があり、後に同社でシルバーカーのデザイナーとなる田中忍と出会った。潔は田中の才能にほれ込んだが、潔は武蔵野美術短大商業デザイン科に、田中は京都市立芸術

二人二脚で商品デザイン



97年に社長に就任した宮城潔は、当初シルバーカーに乗り気ではなかったと明かす

ちようどそのプロデューサー役として頃、潔は田中に開発コンセプトを立案し一緒に仕事をしたほか、布地のデザインようと声をかけも引き受けた。

シルバーに移行

「引きずり込んだようなもの」と潔は屈託なく笑う。

2人は乳母車ではないか」と潔は語った。デザインとして、

大阪に戻って照明関連の企業に転職していた田中、大卒社員は初めてという職場で、何かとや分が欲しいと思う機能をもとに、田中がデザイン

したニーズを加味する。時には衝突することもあるが、「2人の視点は違ふ。お互い持っている長所を尊敬している」と田中は話す。

97年、潔は社長に就任。「いつかは社長に就任していた」が、頭打ちの乳母車に代わり、主力製品をシルバーカーへと移行する必要に迫られてきた時期だった。「乳母車のほうが華やか。実はシルバーカーは気乗り薄だった」と当時の気持ち

（敬称略）